

平成 29 年度

学生によるオレンジリボン運動

東京福祉大学 実施報告書



実施主体 東京福祉大学 ゆうゼミ

実施内容 大学祭を中心とした児童虐待防止の啓発運動

①事前に取り組んだ内容

①ゼミの学習活動の中で、児童虐待の実態や対策について学び、理解を深めた。②また、学生同士でディスカッションをするなどして、自分の考えや意見をまとめ、過去数年間の取組を検討して、今年度の方針を確立、計画を立案した。③今年度も伊勢崎市子育て支援課を訪問し、伊勢崎市における子育ての実情、児童虐待の実態と取組について学び、意見交換を行った。④今年度から通年の取組とした。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

①教職員が集まる全体ミーティングでオレンジリボン運動をアピール、理解と協力をお願いする。②また、学内、とりわけ教員の研究室にはポスター掲示を依頼し、協力を得る。8割の教員が研究室のドアにポスターを掲示する。③学生へは、授業等を通じてチラシの配布、宣伝活動を行う。④さらに地域のホテル、商店街へのポスター掲示依頼を行う。⑤大学祭においてはオレンジリボンコーナーを設置した他、入場者に向けてのオレンジボンチ（フルーツボンチ）の販売、虐待を共通の視点に、伊勢崎市社会福祉協議会との協働により、認知症サポーターによるオレンジリング活動を行った。⑥オレンジリボン発祥の地、小山市を訪問、担当者から取組内容を伺う。⑦また、学生オレンジリボン全国大会に向けて、活動の総括、発表の準備を行い、2月の大会に参加した。敢闘賞を受賞する。

③オレンジリボン運動を終えて・・・

①オレンジリボン運動を5年間継続して取組み、活動を発展させる中で、伊勢崎市役所との連携を一層進めることができた。また、地域の伊勢崎市社会福祉協議会やボランティアグループとの協働も進み、児童虐待防止の活動を発展させる大学と地域とのつながりができつつある。②大学祭では、昨年引き続き、オレンジボンチを調理し、参加者に提供したことは、子どもから大人まで、オレンジリボンをわかりやく伝えるにはよい方法であった。来客は昨年の2倍であった。③また、伊勢崎市社会福祉協議会との連携がさらに発展し、継続した取組となる。④学生オレンジリボン全国大会に再び参加し、本学での取組を報告、敢闘賞を受賞した。活動が評価されたことが確認できた。大学幹部、伊勢崎市に報告、激励を受ける。また、大学のホームページに掲載される。



【東京福祉大学】 http://www.tokyo-fukushi.ac.jp/index_index.html